

学研北生駒駅北地区 基本構想図（解説版）

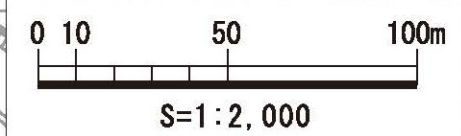
切土量（処分土量）を抑えた造成計画

- ・事業成立性を高めるためには、切土量や持ち出す土量（処分土量）を少なくし、工事費を抑えることがポイントとなる。
- ・できるだけ現状の山への切り込みを抑えた道路や宅地の計画とする。

緑のまちなみ形成

- ・四季の森公園が隣接することから、地区の宅地を少しでも広く取るため、新たに大規模な公園を整備することは避け、小規模なポケットパークの設置や民間宅地内の緑化を促進し、緑のまちなみ形成を図る。

：計画区域を含めた土地利用方法の検討が必要なゾーン



調整池の位置・規模の設定

- ・調整池については、地区内の雨水排水を集めるため、周辺よりも低く、かつ道路沿いなどの利用しやすい土地を避けた位置に設定する。
- ・調整池の規模については定められた基準値以上とする。
- ・調整池へのフタかけによる上部有効利用についても経済性（コスト）等を踏まえ、今後検討していくものとする。

道路①のルート設定・勾配設定

- ・道路①（東西主要道路）のルートについては、学研地区とのネットワークを踏まえ、整備済み道路（コメリ南側）を起点として学研高山地区方面（北東方向）へ抜けるルート設定とする。
 - ・勾配設定は、起点となる整備済み道路（現況高さ134m）から地区内の終点部（現況高さ152m）までの高低差18mを短い区間で結ぶため急勾配となる。（交差点付近は緩やかにする。）
- ※図面に表示のパーセントが高いほど急な坂道となる
（参考値：サンマルクから北上する道路→約6%）

駅前広場の位置・規模と道路②の計画方針

- ・駅前広場の位置については、造成計画方針を踏まえ、駅ホームと同程度の高さで設定し、道路②を短い区間で緩やかな勾配により計画・設計する。（駅前広場と同程度の高さ（140m）の宅地を多くとることにつながる）
- ・駅前広場の規模については、基準に基づく必要最低限の広さに抑え、周りの宅地を広く取る方針とする。

歩行者専用道路等による歩行者ネットワークの形成

- ・四季の森公園や既存の集落、地区西側開発予定地との歩行者ネットワーク確保のため、歩行者専用道路を設置する。調整池周辺の歩行者専用道路は、排水管の埋設用地としての機能も兼ねるものとなる。なお、既存集落とのネットワーク（道路③）については、車も通れる道路とする。

